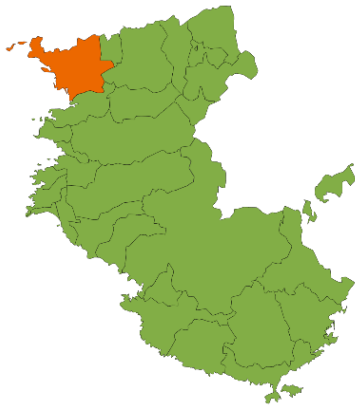


和歌山県和歌山市

加太・磯の浦エリアにおける

観光映像を活用した地域振興



【活動の基本情報】

参加学生数：18名

(1年生：11名、2年生：6名、3年生：1名)

活動期間：2021年5月～

担当教員：木川剛志

1. 活動実施の経緯

加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興として2年目の事業である。和歌山市とその提携先の南海電気鉄道株式会社との共同の事業である。当初求められたことは、加太・磯の浦エリアにおける様々なイベント事業に参加し、それに関連する映像や画像をInstagramなどに投稿することが求められてきた。ただ、1年目からもそうであるが、民間企業としてCOVID-19の影響下でイベントの開催は困難であり、イベント事業への参加を中心とした本プロジェクトは社会情勢に大きく影響される。2年目はCOVID-19の影響は少ないだろうとの想定の下でスタートした。

2. 活動の内容

4月当初から1年目よりも加太・磯の浦地区でのイベントがほとんどなかった。夏以降に期待されたが、夏の到来とともに、新型コロナウイルス感染症の第7波が到来し、それ以降もイベントはほとんど企画されなかった。ただし、観光業の再開とともにモニターツアーなどへの参加などを打診されたが、日程が学生たちとほとんど合わなかった。そこで自主企画として、2022年10月16日に加太でInstagramのリール映像制作のワークショップを行った。9名の参加があり、半日にわたって、加太を散策して撮影を行った。その後もクリスマスや鯛祭りなどのイベントがあったが、学生の日程が合わず、ほとんど参加できなかった。

3. 活動を通じて

今年も厳しい活動となった。やはり春の時期の活動の立ち上げの時に、意識を共有して課題に向けた解決について語り合わない、その後、参加の打診があっても多くが参加しないという事態となった。ただ、Instagramを含めた映像について、学生たちは高い関心があるので、技術ワークショップを重ねることも重要であることを感じた。

4. 成果ポスター



加太・磯ノ浦LPP

和歌山県和歌山市

加太・磯ノ浦LPPについて

目的

- ・加太線沿線の魅力を発信
- ・加太線沿線の風景や雰囲気映像制作

⇒加太・磯ノ浦の魅力をいかに伝えていくか



加太線について

南海電鉄加太線は1912年に開業して以来、110年も和歌山市と加太を結んできた。市街地を走り、住宅街を走り、海沿いを走り…と沿線の風景が様変わりしていくローカル線である。2014年からは「加太さかな線プロジェクト」を開始し、観光列車「めでたい電車」をシリーズ化させた。

前年度の活動

- ・Kadastagramのハッシュタグの作成
- ・南海電鉄の企画したイベントへの参加
- ※スタッフ側としてイベントの運営に参加
- ⇒・映像制作とは関連性のない活動中心
- ・メンバー個人のSNS発信になる

魅力の再発見・沿線の魅力とは…

- 加太：温泉旅行の穴場
- 磯ノ浦：サーフィン（年中）
- ⇒それ以外の場所は？
- 沿線地域を訪れる人間
- ⇒・層に限られる/新規訪問客の可能性薄
- ・確実な目的を持つ人が訪れる
- ⇒カフェなどの**大衆的なコンテンツ**での集客やSNS発信・広報活動が重要化？
- ゆったりとした街並みも活用できる？

今年度の活動

- ・加太へのフィールドワーク（加太駅～淡嶋神社周辺）
- ・南海電鉄×市のイベント参加/様子の撮影
- ・個人でのリール動画の作成
- 未完遂に終わったもの**
- ・市のInstagramでの投稿計画
- ・LPPでのアカウント開設（計画段階で終了）
- ・TikTokのアカウント開設と和歌山市への引継ぎ（計画の停滞）

今年度の振り返り

- ・加太を知らないメンバーの新鮮な地域の見方・印象を知った
- ・計画の更なる具体化と連携強化
- ・能動的/積極的な活動への参加と取り組み

合同報告会 当日の様子

和歌山県和歌山市

テーマ：加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興

各 LPP のブースでポスターを活用して発表する・報告を聞くという形式で行われた。加太・磯の浦 LPP の発表においては、「メンバーの活動に対する声」を取り入れたことについて、合同報告会に参加した学生から評価頂けたことが良かったと感じる。他の LPP の発表を見ても、時間ギリギリまで報告を行うチームが多く、一年にも満たない活動期間で、真剣且つ内容が充実した活動に取り組んできたことが伺える。発表においても要点整理がなされたものが多く、聞き取りやすいものが多かったと考えられる。

交流会においては、各 LPP での取り組みでは繋がることのないような学生や、複数の学年が混合してコミュニケーションを取っており、様々な価値観を知るという観点からも非常に良かった。開始直後の方が、意見が多く、活発に議論できたが、後半になるにつれて議論の短時間化があったと振り返る。交流会での議論を通して出た意見は、学生の地域への関心をより高める重要な改善点であると考え、来年度の活動に活かしていく必要がある。地域への関心が高い学生が参加する会だからこそ、学生 1 人 1 人が主体的に取り組めたことは、この LPP 合同報告会において一番良かったことであると振り返る。

